

Right

Bブロック 全作品と講評

www.columnland.net/

にて作者さん&読者さんの声実況中

争いの絶えない世界

流されやすさ

変えたいもの

ルックス

どうにも消えない眠気

バランスよく。これがホントの right-minded.

まぐれで取れた一〇〇点

対人関係

変えたくないもの

貴方への想い

皆にずっとつづく平和

僕の世界の始まりはこの病院だった。そして、僕は人を殺したらしい。

彼女の権利、義務

殺人犯の記憶を消して、人格を入れ替える。そうやって、社会復帰させる法律があるらしい。法律の名前は忘れちゃったけど、僕はその第何号かってことみたいだ。

僕の素性は伏せられてるみたいだけど、そういう話はどこからか漏れるものらしい。僕と積極的に関わろうとする人は、彼女を除いて皆無だった。

僕が廊下に立っていると、彼女の車椅子の音がした。僕は彼女の車椅子を押して庭へ出た。こうして、散歩しながら話をするのが日課になっていた。僕は、前から気になっていたことを訊いてみた。

「前から思ってたけど、なんで僕なんかと関わろうと思ったのさ」

「んー、顔が好みだったから」

今にも太陽に吠えそうなハードボイルドな笑みを浮かべていた。前から思ってたけど、変わった子だな。でも、まあ、少しは勝算あるか。今日は彼女が退院する日だった。僕が通っているのは精神科だから、いつ退院できるのかわからない。だから

「今日、退院前に屋上に来てほしい」僕は、覚悟を決めた。

錆び付いたドアの開く、鈍い音がした、彼女だ。僕が振り向こうとすると、彼女の

手が僕の首へ伸びた。地面へ押し倒される。苦しい。彼女の目からいつもの光が消えていた。でも、彼女ならいいか、と思った。本来死ぬはずだった人間だ。だから、僕は最後に彼女へ微笑んだ。

ふいに、彼女の手が離れる。

「だめだ・・・よ。やつぱり、あなたはもう、あたしのお姉ちゃんを殺した犯人じゃないんだ。私、犯人を憎む権利もなくしちゃったんだね」心臓が跳ねた。

「こんな気持ち、お姉ちゃんに言えないよ。あの事件の犯人が病院にいつて聞いたからさ、わざわざマンションから飛び降りたりして、本当馬鹿だよ。仲良くなったフリして、最後に殺してやるうって、思ってたのに。だんだんとあなたの微笑みに惹かれる私がいて。そんなに優しく微笑まないでよ・・・」

「ごめん」

「謝らなくていいよ、あの事件の犯人はもう死んじゃったんだよ」そんなこと言いながら、彼女の涙は止まらない。僕の体は自然に動いていた。彼女の鼓動を感じる。

「僕と一緒にいて欲しい。それで、もし僕が犯人に戻ったら・・・殺してほしい」彼女は目を見開いて首を振った。

「君が好いてくれた僕のままで終わりたいんだ。だから、お願い」

僕は彼女に権利をあげたんだろうか、それとも・・・しばらく考えていた。

B-3 右倣左放(うおうさおう)——素晴らしき右利きの世界——

さて、今より語る御話は、今より近くて遠い未来の、或る並行世界の御話。

合理化という大義の下、人々は様々な制度・システムを構築し、社会に存在するあらゆる不合理を駆逐していったのであります。戦争を失くし、貧困を失くし、果ては国境を失くし、最終的に、それらを実行・管理する超国家組織「管理機構」が形成されたのであります。

然し、当たり前の事ですが、それは又、完全な管理社会の幕開けでもあります。そうなる、人々はまるで、管理機構の流す情報に踊らされる、右へ倣えの操り人形。かくして推し進められた諸々の合理化は、遂に一つの暴走をもたらしただけであります。

その名を「右利き強制(左利き矯正)令」。

そも、この前時代的発想、一見、無茶苦茶な物でありましたが、成程、確かにある一面に於いては合理的な観点からもたらされたものでありました。

曰く、左利きの為に設備を改良する事へのコストパフォーマンスの悪さを改善する為だ。

曰く、機械を改良するくらいなら、高が一割弱の人間を教育した方が案に違いない。

曰く、左利きは頭が良いという迷信を信じている。それを鼻にかけていて偉そうだ、許さん。

曰く、社長の右腕が左利きだ。アイツは俺より成績が悪いのにおかしい。

曰く、我が国では左手は不浄の手だ。

曰く、社員食堂で肘がぶつかった。

曰く、私の彼は左利き。

かくして、社会的に迫害される事と合いながら左利き達は、自らが左利きである事を隠して生きる「隠れ左利き」として生きる事を運命付けられる事と成ったのであります。

又、彼等の一部は地下に抵抗組織を作りました。特段、名称を持たない彼等を管理機構は、

古い政治形態に準えて「左翼」と呼んだそうです。

おや、ここに不幸にも左利きである事が憲兵にばれた男が一人。どうやら、憲兵達と遣り合っている模様。少し覗いて見る事としましょう。

「大人しく捕まりやがれ」

「一体、何の権利があつてこんな事をする」

「権利？ そんな物は無いさ。あるのは勝てば

官軍、その道理だ。悪く思うな」

「面倒な事はどうでもいい。ふん縛っちまえ」

「うわあ、止めろっ！」

バキッ、ドカッ、グジャァッ……

かくして捕まつた不幸な左利きの男は矯正収容所へと送られるのであります。

然し、そんな或る時、とある科学者が人口調査をしたところ、衝撃の事実が判明して仕舞ったのであります。

最初、その科学者はその事実を隠そうとしました。これは社会に発表するには危険過ぎる。闇に葬るべき事実だ。然し、世の中噂に戸は立てられない物であります。

この事に左翼の連中は気付き、その科学者に公表を迫りました。結果、科学者は屈服しました。屈伏せざるを得なかったのであります。

その事実とは、何と右利きより左利きの割合の方が実は高いという物でありました。

さて、その科学者も隠れ左利きだったのです。左翼の連中は、その科学者を、事実を発表しなければお前が左利きである事をばらすと迫ったそうです。

不思議なことに、原因は不明ながら、或る時を境にして左利きは増えていき、今ではすっかり逆転しているそうです。そして、その或る時とは「右利き強制令」が出た頃だそうです。

これには、世界中が右往左往の大パニック。さて、この大混乱は又、別の御話。今回はここまで。これにて、左様なら。

紅の正義

ただひたすら右に突っ走る

それが俺のジャステイス

キノコだろうと亀だろうと、潰して右へ^田ダッシュ

それが俺のジャステイス

落ちて残機なくしても、復活（コンティニュー）してまた右へ走る

それが俺のジャステイス

なぜそうまでして右に進むかだ？

右にゴール（旗）があるからだ。

ああ、俺の道は右にしか伸びてねえんだ。

ん？今は三次元の時代だから、ただ右に進んでもゴールに着かないだ？

はっ！（鼻で笑う）

マ・マ・マ・シーヤ（それがどうしたよ）

九回表、四―五で僕たち筑前高校はあと一点を詰められないでいた。ツーアウト、ツーストライク、ワンボール……バッター六番、三年の山田。ランナーは二塁、僕、三年の植木だ。筑前高校初の甲子園出場がかかった大事な試合だった。

カーン……

『ファールッ！』

（この修羅場で山田はよく粘っている。ここがふんばりどころだ。最後に一発かましてやれよ！……それにしても熱いな……）

七月でも太陽は真夏の様に僕の集中力を削いでいった。

（ああっ！だめだだめだっ！最後の最後まで集中するんだ！もうツーアウト、後がない。山田が打った瞬間ホームまで一気に走ろう。）

僕は思いつきりほっぺを叩いた。

カキーン……

『打った！大きい当たりだ！』

すかさず僕はベースを蹴り、我武者羅に腕を振った。三塁ベースをスパイクでグイッと踏みつけ、体を左にねじ曲げた。

『ああと、ライト手を挙げて構えた！』

三塁を回った辺りから息が苦しくなった。ホームが遥か遠くに感じた。それでも息継ぎせずに走り続けた。もうホームしか見えなかった。

（あと少し……もってくれ……）

意識が遠くなっていった。あつ！足が空を蹴った感覚がした。視界がびゅんと吹き飛んだ。体勢を立て直そうとするもむなしく、僕は石灰の混じった白っぽい土の上に飛び込んだ。

バースッ！

しばらく立ち上がれなかった。

「大丈夫か？」

僕は少し顔を浮かせて声のするほうをちらっと見た。手を差し伸べたのは相手チームのキャッチャーだった。僕はその手を借りて立ち上がったが、前を向くことはできなかった。僕の顔は砂と自分から出たあらゆる水分でグチャグチャだった。

こうして僕の夏は終わった。

「駆け込み乗車はお止めください！」

駅員の注意も耳に入らない。これ逃したら遅刻確定だ。

どうにか飛び込み、閉まったドアにもたれかかる。

電車はすぐに次の駅に到着して、一気に人が降りていく。いつもここで席が空く。よし、あそこに座ろう。…あれ？動けない…。

荷物がドアに挟まってる

肩掛けのバッグの角ががしっかりドアに挟まれている。とりあえず引つ張ってみるが、びくともしない。仕方ない。そのうち開くだろ。そうしているうちに、次の駅が近づいてきた。

「まもなく…お出口は右側です…The door of right side will open…」

あ…このドア開かないじゃん…。焦って力任せに引つ張ってみるが、周りからの視線が痛くなるだけだった。力任せは駄目だ、考えろ…考えるんだ。

問い…正しいものを選ぶ。

一、誰かが助けてくれる

二、とりあえず頑張る

三、何も思い浮かばない、現実是非情である

一は…。駄目だな。知ってる奴が乗ってねえ。それとなく近くにいたお姉さんを見るが、こちらを気にする様子はない。三は論外だから、残るは二か。なんか選択肢がおかしいのは気のせいかな…。

答え…三

駄目でした(泣)。ついでにさっき俺が降りるはずの駅を通り過ぎた。

問い…正しいものを選ぶ。

壹、あきらめない

貳、あきらめない

参、あきらめない

—いや、もういいから…。

脱力してドアに寄りかかったとき、電子音と共に背中の中のドアが開いた。予想外の事で俺はそのまま背中からホームにひっくり返った。

「答え…四、駄目だこりゃ」

キミの隣

夏休みが始まってすぐの蒸し暑い日、僕は学校で英会話の補講を受けることになった。不真面目な僕は他の奴らがしどろもどろ英語ともつかない英語を話している英会話の時間、たいてい屋上に転がってぼうつとして過ごしていたが、さすがに出席授業時間数が足りなくなり、1対1でレッスンを受けなくてはならなくなってしまったのだった。

その、ミス・ハンニガンという外人教師は綺麗な金髪に翡翠色の瞳をという涼しげな風貌の美人であり、僕は（外人の彼女を持つのも悪くないな……）などと馬鹿げたことを考えながら、タラタラとテキストの英文を読んでいた。時折、

「Oh, this is not "s". Repeat after me, ...」

などとミス・ハンニガンの指摘が入る。明らかに僕が面倒くさそうな顔をしていたからか、彼女はしょっちゅう溜息をついた。がらんとした教室に2人きり。自分の代わりに当たってくれる奴はいない。僕は、失敗した、どれくらいまでサボっていいかぐらい気にすべきだった、と思った。

と、急に空が暗くなり、あつという間に夕立ちになった。

雷が鳴り雨が物凄い音を立てる。ミス・ハンニガンは顔をしかめた。これでは発音練習など意味がないと思っているな、しめた！と、僕はすかさずカスほどしかない単語の知識を寄せ集めて

「Let's stop our exercise, the rain is noisy.」

と言ってみた。帰って、はやくやりかけのゲームの続きでもしたかった。が、目の前の教師がひきつった顔をしたので僕は余計なことを言ったと一瞬で後悔した。これでは帰りたいという考えがバレバレではないか！怒られると思った僕はうつむいた。しかし――

「You are right.」

そう言って彼女は凄い勢いで教室から駆け出て行った。

僕はあつけにとられて彼女が走り去って行ったドアの方を見ていたが、自分の提案が受け入れられ補講が終わったことに間違いはないので帰る支度をすることにした。鞆の置いてある右の席に視線を移すと

そこには 血まみれの少女が 座って――

辞書にそう書いてあるから

R i g h t . . . 正確な、権利、右、正しい

正確なことは、そりや正しいよな、「正」って漢字も入ってるし意味も、間違いのないこと、とか広辞苑に書いてあるし

権利があるってことはそれなりに周りから認められないと。おんなじ意味、ってワケじゃないけどやっぱ「正しい」に関係ありそう

右? . . . 右って何でこいつらと一緒に並んでんの? 右が正しいの? 左はダメ? でも辞書に書いてあるし。

もっててよかった、辞書。

「今日未明、山に登っていた男性が一人、亡くなりました。詳しい情報は、まだ入ってきておりません。」

そのフライトは恐怖のどん底に

ヤシユリー空港発リスカン島行き、玖渚航空240便。太平洋上空、離陸から約1時間が経過した時、その事件は起きた。突然スピーカーから放送が流れ始めたのだ。

「くつくつくつ。この録音の放送を聞いている頃には、もうこの飛行機は高度2万フィート以上だろうな。ここで愉快なお知らせだ。俺様はこの飛行機に時限爆弾をセットさせてもらった。爆発まではあと10分つてところだろう。お前らが生き残る為には、10分で爆弾を見つけ、解除コードを入力するしかないつーことだよ。俺様との知恵比べってわけだ。希望の明かりを真相に結び付けられるかな？ それでは、良いフライトを。くつくつくつ。」

機内は騒然となった。しかしどう足掻いても逃げ場のない飛行機。パニックになり扉を開けようとする人達を客室乗務員は必死になって抑えていた。そんな混乱の中、副機長は貨物室で爆弾を発見した。爆発までの残り時間と入力画面を映すモニターとキーボード、そして側面には文字の書かれたプレートが付いていた。「Wを兄弟にってどういう意味なんだ？ 全くわからんぞ。しかし、どうやらそれが示す人物が生み出したものが解除コードになっているようだな。」しかし彼にはそれ以上何もわからなかった。爆発までの残り時間はすでに3分を切っていた。

そこに一人の男がやってきた。「俺は日本で刑事をしている阿良々木という者だ。ぜひ協力させてくれ。」「お願いします。私ではコードがわからなくて困っ

W → 兄弟
彼らが生み出したものは？

ていたところなんです。」「そうなのか。犯行声明を聞いた限り、犯人は相手を馬鹿にすることを楽しむ愉快犯型だと思われる。こういった犯人はわざとヒントをばらまいて、それなのに解けない様子を楽しむ傾向にある。必ずヒントがあるはずだ！」「おそろくこのプレートがヒントなのでしょうが…どういう意味なのかさっぱりでして…。」「どれどれ。…なるほど、簡単で助かった。この1段目が示しているのはライト兄弟だな。」「ど、どうしてライト兄弟なのか？」「簡単なことだよ。『↑』は英語で『right』、つまりこれはライト(Wright)兄弟のことなのだよ。」「ということはコードは『飛行機』ですね！」「副機長は早速『飛行機』と打ち込もうとした。が、しかし。」「駄目です。日本語入力ではなく英語入力のようです。飛行機を意味する英語は plane とか airplane があって絞れません！」「落ちつけ。きっとどこかにヒントが…。」「でもここにはもう何もありませんよ…。」「ということは犯行声明にヒントがあるのかもしれないな…。」「そうだーフライト(flight)だ！ 犯行声明の最後に彼はフライトって言っていました！」「なるほど！ そう来たか！」「慌てて副機長は『flight』と打ち込んだ。残り1分。」「待つんだ！ まだ犯行声明にあやしい部分がある！ 明かりを真相につて部分だ。ここを考えないで入力するのは危険すぎる！」「でも、もう時間がありません！」「残り5秒まで待つてくれ。それまでになんとか…。」「わかりました。あと30秒です！」「明かり…真相…フライト…爆弾…解除コード…英語入力…はっ、そうか！ 明かり(light)を真相(right)にしなくちゃいけないんだ！ つまりライト兄弟が生み出したのはフライト(flight)ではなく恐怖(fright)だー」残り7秒。副機長が打ち直す。残り4秒。それ以上秒数は減らなかった。そして多くの命も減らずに済んだのであった。

ヒーロー

英雄はいつもそこに

ライトマンは今日もバトロールをしていた。といつても空は飛ばない。宇宙の法則に正しく従って生きるのが彼のポリシーだ。群衆の中に身を潜め、常に全神経を研ぎ澄ませて人々の声に耳を傾ける。誰かの悲鳴を聞きつけては、ライトマンは声のもとへ駆けつける。電車に引かれそうな少年を見つめるや否や、彼は素早く電車を止め尊い命を救った。しかし線路に立ちはだかり力技で電車を押し止めるようなことはしない。そのようなことをして人の目については今後の活動に響くし、異常なパワーの行使は彼のポリシーを破ることとなってしまふ。彼は謙虚にも非常停止ボタンを使つて電車を止めることを選んだ。小さな動物の悲鳴も彼は聞き漏らさない。段ボールの中で泣きじゃくる子猫に彼は優しく手を差し伸べた。正しく美しい心で何者にでも接する、それもまた彼のポリシーであつた。小さな家族を一匹増やしてからも彼はバトロールを続け、小さな悪から着実に退治していった。大きな悪の情報はなかなか掴みづらかつた。まずは喝あげや痴漢、スリなど、鋭い眼光で諸悪を見つけては目立たぬように警察に知らせていき、結果、彼の周辺は少しずつ平和を取り戻していくようであつた。

彼はだれにもその正体を知られることもなく、ひそかなる活躍によつて平和を保っているのだ。僕もライトマンになりたいなという子がいたら、彼はこういふだろう。

「誰にでもなれるものだ。必要なのはほんの少し強い正義感だけさ」

——今日も、ライトマンと名乗る彼は、

相変わらず電車に揺られ上司に小突かれる日々を送るのだった。

その正体の平凡さにおいて、ライトマンの右に出る者はいない。

今後、ライトマンがその数を増やし

地球に真の平和が訪れる日を、ただただ待つばかりである。

天皇陛下
ばんざい

ちやかな

エール

数ある人生の選択肢

君は正しくないかもしれない
むしろ人生に正解など
無いのかもしれない

それでも

そのときの精一杯の君で
悩み、苦しみ、選んだ
その先に続く明日ならば

“You are all right !!”

(君は、大丈夫だ！)

きつと顔を上げて
生きて行けるはず

人生は何度でも

やり直しがきくって言うけど
やり直すものじゃなくて
描きなおすものじゃ
ないだろうか

君は、君の人生の中の

たった一人の主人公なのだから
いつだって
どんな時だって

“You are all right !!”

(君は、大丈夫だ！)

君の幸せは
君にしか決められない

後悔に打ちひしがれる日には

いつでも訪ねておいで
頑張り屋の君に
ささやかな エール

“You are all right !!”

(君は、大丈夫だ！)

君なら、きつと
大丈夫だよ

コンテスト結果

[Aの部]

コラム番号	コラムタイトル	点数	順位	特別賞
		まじょコメント		
A01	誇り	1 pt	9 位	1 sp
		「ライパチ」というキーワードがカチッとはまって効いてます。 むしろこれがタイトルでも良かったくらいに個性的。熱く華やかにスポーツトークするのでなく、ぽつりぽつりと語って、行間からじわりと誇りがにじみ出てくるような、それこそまさにライパチ・クオリティだなあと納得の表紙でした。 特別賞：らいぱち賞（らいとではちばん） イチオシフレーズ：「ライパチ」		
A02	ちょこっと小粋な運命	8 pt	5 位	1 sp
		あまーい！ 定番正統派の2 番枠にこんな大甘を持ってきたのも、TAさんの小粋なはからいか。 そんな運命の出会いって確率的にアリ？ と大疑問だけど、それはそれでお約束。 歌がとてもうまくムードメイクしてますね。おしあわせにっ☆ 特別賞：あかりをつけま賞（結婚しているのか知りたい）		
A03	反転する世界	15 pt	3 位	2 sp
		壊れてゆく。はじめは少しずつ、そして怒濤のように加速して。 ラスト2 日の日記の文体で、世界のコワレ具合を表現したワザがみんなのツボ！ でした。おつかれ～。ブロンズメダルをどうぞ。 特別賞：打つの大変だったで賞（最終段落の苦労が見てとれる）がんばったで賞（最後の段落の努力はすばらしい）		
A04	ーペンネーム：「稲荷寿司大好き」さんからの投稿ー	18 pt	2 位	1 sp
		ありえないど忘れから展開するコント。 外人さんと鳥居という取り合わせにしたことで、不思議ジャパンにまで翼を広げた展開が、いい味でした。 お寿司ともども、シルバーメダルゲットです、おめでとう!! 特別賞：岩田はこれで賞（なんかそれっぽい） イチオシフレーズ：「鳥居を出たら右に曲がって、右に曲がって、右に曲がってください。」×3		
A05	無題（人類絶滅）	5 pt	7 位	1 sp
		うん、たしかに。 小さめにさらっと届けられた重たい真実。 で、どうするの？ 特別賞：人類は半数くらいになるべきで賞（半数になったら、山手線も混まないと思う。）		
		0 pt	10 位	0 sp

A06	Right－正しいこと	実体験かな？と思わせる具体性。 そんな日常体験から語り起こした親近感は良かったけれど、お隣さんだけが非難されてるのも、なんだか。じゃあ翻って我が家は？ 自分は？ というところまで考察の目が届くと、もっと社会的なジャスティスって何？ と一般化できたのでは。
A07	『もう一度、“ All Right” 』	19 pt1 位1 sp 悲劇の進行は切れ切れの音で聞かせて。 回復ストーリーはゆっくりとクレッシェンド。 そんな緩急の使い分けで描き出されるおじいちゃんとの交情、おみごとでした。 1 ポイント差のゴールドメダルで「ついにこの日が来た」――壇上での名コメントにも大拍手!!! 特別賞：オーライ賞（おいしい） イチオシフレーズ：「どうしてしばらくの間だったか」
A08	無題（語学）	0 pt10 位0 sp いっぱい意味があるねえ、たしかに。 「勘弁して」もみんなのツボだったようだけれど、でもそこを「勘弁して」でなくて、ポジティブ思考につなげられるとより展開できたのでは。 イチオシフレーズ：「勘弁して」× 2
A09	名前に嘘はつけない	3 pt8 位1 sp くすっと笑える一発ネタ。 監督さん、じつはわざと狙ってたりして。 特別賞：夜神月で賞（班の中でDeathnoteの話題でもりあがったから） イチオシフレーズ：「6 番レフト来人」× 2
A10	～Right～（運勢）	0 pt10 位1 sp えーとえーと、なにゆえに右手？ そこが、みんなの大疑問。 特別賞：キラリ賞（勘違い？） 勉強になったで賞（Bからの特別受賞） イチオシフレーズ：「O r z」
A11	Right and Duty	8 pt5 位2 sp 権利と義務のウラオモテ関係。 きれいにロジカルにまとめていただきました。 こうした新聞コラムの定番ではあるけれど、政治家批判で終わってしまうのは、やはりありがちだったか。 そこに個性を響かせたい。 特別賞：努力賞（がんばったから） 中谷君のオススメ賞（幼女好きだそうです）
A12	大洪水 水着着て待つ 楽天家	13 pt4 位4 sp 日替わり右手のナンセンス。 どーんと動じない冷静オヤジの受け答えにはまります。 ベスト 3 まであと1つは悔しかったけれど、ウケはしっかりとれて最多特別賞＆イチオシフレーズ大賞のダブル受賞です、おめでとう!! 特別賞：意味分からないで賞（日本語でOK） まあ、いいっ賞（ゆるふわ） ぶっとび賞（とにかくとりあえず迷。） オヤジっ！ なんかよく分かんないけど読んで

		てなんかおもしろかったと思うで賞 イチオシフレーズ：「オーロラソース」×2 「安心しろ、お前のジイちゃんはケチャップしかだせなかった。」×3
--	--	---

[Bの部]

コラム番号	コラムタイトル	点数 まじょコメント	順位	特別賞
B01	変えたいもの/変えたくないもの	0 pt カタチ☆ユニーク。すぱっと中央で割った潔さがここちよい。 左をディフェンスしつつ、右をガーッと攻めてゆくサッカーのようなスポーツ陣形に見えました。 特別賞：レイアウト賞（美しい） 左右対賞（称）	9 位	2 sp
B02	彼女の権利、義務	15 pt 設定の巧みさが光ります。 罪を犯し、それを贖（あがな）うこと。更生して別人格になってしまえば、それで犯した罪は消えるの？ 遺族の報復感情の行き場は？ 重たい問いを根っこに置きつつの、しっとりしたラヴストーリーでした。 シルバーメダルをどうぞ!!	2 位	0 sp
B03	右倣左放（うおうさおう）一素晴らしき右利きの世界ー	15 pt とぼけた語り口で披露される並行世界の、これはまたなんと説得的で、かつドラマティック！「矯正収容所」なんて、こまやかなつくりも楽しめます。 とくにラスト三分の一の左利きの逆転劇が、ストーリーを大きく跳ねさせてて、いいね☆ おめでとう、シルバーメダル!! 特別賞：共感できる賞（俺が左利きだから） イチオシフレーズ：「社長の右腕が左利きだ」「グシャアツ……」	2 位	1 sp
B04	紅の正義	10 pt それが俺のジャスティス というフレーズの力強さが、ビートのようにいいリズムを刻んでます。 小学校高学年くらいの男の子が、コントローラー握りしめてイキがってるかわいい光景が浮かんできました。 特別賞：イタリアで賞（マンマ・ミーヤ） イチオシフレーズ：「マンマ・ミーヤ」×3 「Bダッシュ」	4 位	1 sp
B05	無題（野球）	1 pt 逆転？ かと思いきや、の涙オチ。 そこが日常感あふれてていい。現実なんてこんなもんさ、と。 たくさんの球児の夏は、きっとこんなふうですね。 特別賞：さわやかスポーツ賞（さわやかで感動した） イチオシフレーズ：「カキーン」	8 位	1 sp
B06	「駆け込み乗車はお止めください！」	5 pt 三択クイズやってる場合か！ という煮詰まり具合がコミカルに展開して、オチもスパーンと切れよくナイス！ でもまたきっと駆け込み乗車するよね、こいつ、と作者さんに、もとい、登場人物に親近感が湧きます。 特別賞：JoJoで賞（ポルナレフ乙） イチオシフレーズ：「駄目でした（泣）」 「現実是非情である」「The door of right side will open…」	7 位	1 sp

	B07	キミの隣	0 pt	9 位	0 sp
			夏の怪談。リスニングの練習もしておくべきだったねえというコワ〜いオチつき。 コンパクトにまとめたことでインパクト発生。都市伝説候補ですね。		
	B08	辞書にそう書いてあるから	0 pt	9 位	1 sp
			辞書持って、山に登って道に迷った、ということでしょうか。 さくっとまとめておもしろさは発生してるけど、でも、何も殺さんでも。行方不明くらいで止めておいても良かったのでは？ 特別賞：おもしろかったで賞		
	B09	そのフライトは恐怖のどん底に	26 pt	1 位	1 sp
			うわあ！すごいまいぶらぼー!!! トリックものって、理屈っぽくてややこしい展開になりがちなのですが、これは秒読みという、まさに「恐怖」のなか、とてもシンプルにflight→frightと変換。すんと腑に落ちます。 よく考えついたなあ。大拍手っ！圧勝でしたね、おめでとう!!! 特別賞：維新で賞（作者がわかる）		
	B10	英雄（ヒーロー）はいつもそこに	10 pt	4 位	2 sp
			目立たないことが、カッコイイことなのさっ。さあ、ぼくも今からライトマン！ そのさりげなさが、とてもここちよい。 満員電車の中吊りで、こんなストーリーが下がってたら、みんな少うしだけやさしい気持ちになれそうな。 特別賞：新人賞（シュールさがたりないでもすきだよ）正義で賞（素晴らしい!! オレもヒーローに?） イチオシフレーズ：「異常なパワーの行使」「その正体の平凡さにおいて、ライトマンの右に出るものはいない」×2		
	B11	『これがみぎがわ』	8 pt	6 位	1 sp
			え？万歳？意表を衝かれます。 首領様だったら、どっちなんだろう、とか。 ささやきのように記された「これがみぎがわ」がシニカルなつぶやきのようでもあります。 うーん、深いのか、テキトーなのか意図が良く分かりませんでした。 特別賞：シンプル賞（短くてシンプル） イチオシフレーズ：「天皇陛下ばんざい」×2		
	B12	ささやかなエール	0 pt	9 位	3 sp
			ラストは歌って終わりましょ♪ 音程もしくはテンションをレイアウトの上げ下げで表現したのかなと読みました。 You are all right!! のリフレインが、とてもパワフルで励まされます。 爽やか読後感で最多特別賞でした。 特別賞：ハヌマーン賞（イィ(・∀・)）さわやか賞（票が入ったのに3位に入れられなかったから）裏表紙賞（歌って下さい。）		